

平成20年度 松本大学 自己点検・評価報告書（抜粋）

－平成20年度 自己点検・評価報告書作成に当たって－（副学長 住吉広行）

【高い評価を受けた短期大学部での第三者評価】

平成20年度は、松商短大部で第三者評価を受審した。結果は、経営情報学科で1.3倍を超える学生を入学させているのでこれを是正せよというのが、唯一苦言らしいものであった。強いて挙げれば、自己点検・評価報告書が第三者評価の様式に則っていないので、様式に則した形式で作成するよという意見をいただいていたことくらいであろうか。

後者に関しては、実地審査の時に「毎年あまり変わらない内容まで、様式に則した報告書を作成することに大きな意義を感じておらず、私たち自身が問題と感じている事を中心に、点検・評価している」と主張した。それには理解を示されたものの、評価員として肯定も出来ず、「それでも規定通りの報告書を作成して下さい」ということになった。

【第三者評価の受審と自己点検・評価報告書との関連】

短大部での出来事ではあったが、このような第三者評価でのやりとりを踏まえての今報告書の作成となっている。きちんと改善されたかという点、その域には達していない。と言うのも、来年度は松本大学が第三者評価を受けるので、理念、大学経営と財務状況、理事会運営等についてはそちらで記述されるため、全く同じ内容を盛り込むのは地球環境や省資源の観点で見ても無駄だと判断出来るからである。従って本報告書では、大学や短大部、各種センターや事務部門の日常的な業務（委員会等による分掌システムによって実行される）に限っての点検・評価としている。こうした日常の分野も第三者評価用の報告書において記述はできるだろうが、本学関係者が自らの分掌システムに沿って考える事により、今後の運営で必要なことをより直接的かつ詳細にわたって、PDCAサイクルに基づいて検証できると思われる。フォーマットの決まった第三者評価の様式に、本報告書の内容を落とし込むには、少々修正を加えたり、並べ替えたり、改変する必要がある。この意味では本報告書と第三者評価用に作成された報告書は、似ているけれど違うものである。

【本年度の重要課題と達成目標】

今年度の本学の重要課題は、正式の学長を選出すること、学生募集において全学部・学科（短期大学部を含む）で定員を上回ること、短大部の第三者評価での認証を得ることであった。もし次にあるとすれば、何度もGPを獲得していたのは短大部だけだったので、四大でもGPを取得することであった。

今年度、こうした目標は全てクリア出来た。この意味では、今年度は大局的に見て順調な前進を遂げたと考えられる。加えて強化部である女子ソフトボール部が、インカレベスト8、全日本選手権では実業団二部リーグの首位チームを撃破し、ベスト16に残ったこと、国体にも出場したことなど予想を越える戦績を挙げ、全学を鼓舞してくれたという嬉しい誤算もあった。こうした流れの中で、大学、短大部、共通部分、事務部門などに大別して自己点検・評価を行い、その延長線上に来年度の課題を設定しその克服を見据えたい。

1. 松本大学

(1) 教育関係

①人間健康学部（健康栄養学科・スポーツ健康学科）が開設2年目を迎え、年次採用計画に沿って同学部の新任教員が、教授3人、准教授1人、助手2人採用された。

②教職課程では、平成21年度開設に向け、「養護教諭一種」、中学校一種免許「社会」、
「保健体育」の申請を行い認可された。

③総合経営学科に産業カウンセラー資格対応の課程を設けた。

④資格取得状況

観光ホスピタリティ学科	社会福祉士	2名合格
〃	国内旅行業務取扱管理者	4名合格
スポーツ健康学科	健康運動指導士	4名合格
	健康運動実践指導者	11名合格

その他簿記、情報関係資格多数合格

⑤人間健康学部入学者に対し、入学前の基礎教育指導を通信教育で行った。

⑥教職資格取得者

- ・「公民」4名、「地理歴史」3名、「情報」3名、「商業」3名、「保健体育」7名
いずれも高等学校1種免許
- ・田川高校の臨時教員（情報担当）に1名採用

(2) 研究関係

①科学研究費補助金には5名が採択された。また、科学研究補助金共同研究者としても5名が登録された。

②文部科学省の「地域共同研究支援」に、総合経営学部で13件、人間健康学部で17件採択された。

③文部科学省の「地域における社会貢献事業支援」に3件が採択された。

④人間健康学部健康栄養学科で学外企業から5件の研究費を受託した。

(3) GP関係

①文部科学省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に選定され、短期大学部とともにダブル選定となった。このプログラムにより地域づくり考房『ゆめ』の分室を松本駅アルプスロに設置し、新たな活動が展開を始めた。

②長野県内8大学による「高等教育コンソーシアム信州」の結成をベースに、文部科学省の「戦略的大学連携支援事業」に申請し、選定された。これにより8大学間のネットワーク環境を整備し様々な事業が展開し始めた。

③前年度に引き続き文部科学省よりの受託事業である「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」が実施された。

(4) 大学院計画

大学院設置構想学内検討委員会を立ち上げた。

(5) 高大連携

松商学園高等学校と「地域づくりプロジェクト」の準備会を数回に亘って開催し、事業内容の検討に入った。また、放送部の生徒や希望者の参加により、(財)科学技術振興機構

のサイエンス・パートナー・プロジェクトが松本大学において実施された。

岡谷東高等学校とスポーツ健康学科がスポーツサイエンス教育に関する提携を結んだ。

(6) 委託事業

各自治体、団体等より 11 件の委託事業を受ける。

(7) 卒業時の顕彰

上野奨学基金賞 総合経営学部 2名

赤羽奨学基金賞 総合経営学部 2名

(8) 就職内定率 (21年3月31日)

総合経営学部 92.5%

人間健康学部 93.3%

(9) 施設充実

動物飼育のゲージを設置した

動物実験のための慰霊碑の建立

(10) 財務関係

学生数の確保が収入増に大きく貢献している。総合経営学部は単年度では資金収支ベースではようやく収入超過となって来ているが、平成14年度の大学設置時の設置経費が影響し、消費収支では繰り越しの支出超過となっている。

人間健康学部は開設2年目で完成年度前であるため、まだまだ必要な経費がかさんでおり単年度でも支出超過となっている。更に設置時の投資額が大きく影響し、当然のことながら大幅な繰り越しの支出超過となっている。人間健康学部はこれからも完成年度までは施設・設備の充実が必要となるため、完成年度後の単年度収支バランスを目指し、早い時期の将来において繰り越し赤字も解消したい。

なお、今年度の決算に21年度から22年度にかけて建設予定の7号館の校舎建設引当預金繰入支出を設けた。これも学生数の増加に伴う措置であるが、堅調な学生募集の証でもある。

■ 包括的な点検・評価と今後の課題

はじめにも述べたが、大局的な視点で見れば実現を目指していた大きな課題（とは言っても短期的な目標ではあったが）は、全てクリア出来た年度であったと言える。この意味では今年度の諸活動の点検・評価結果は、十分に満足のいくものであったと結論づけられる。

今後はこうした小成に甘んじることなく、気を引き締めて次年度もさらなる前進を目指すとともに、完成年度を未だ迎えていない学部・学科についても、「長期的に見て安定軌道に乗せるための経営」という視点での取組が重要になってくる。

このとき、松本大学の二学部と松商短期大学部との相互関係について、例えば委員会の共同・協議の方式、学生間の交流と時間割（教員交流を含む）などの課題をとっても、異なる質を持つ学部間交流という要素も含まれるので、必要な部分の交通整理を行う。

2. 松商短期大学部

(1) 教育関係

- ① 新たに教育課程に「心とこども」フィールドを設けた。
- ② 各資格関係の認定を次のとおり受けた。
厚生労働省より職業能力に関する教育訓練の認定校
介護員養成研修校
- ③ 格取得状況
 - ・ファイナンシャルプランニング 1名
 - ・図書館司書 18名
 - ・簿記・コンピュータ関係資格 多数
 - ・医療事務関係資格 延べ 113名

(2) 研究関係

- ① 部科学省の「地域共同研究支援事業」に9件採択された。
- ② 3名の教員の「学術研究助成費」への申請が採択された。

(3) GP 関係

- ① 18年度採択された特色GP「キャリア教育をペースとした課程教育の展開」の事業について引き続き補助金を受け、実施された。
- ② 文部科学省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」（略称：学生支援GP）に選定され、松本大学とともにダブル選定となった。

(4) 第三者評価の受審

(財)短期大学基準協会による第3者評価を受審に適格との判定を受けた。評価結果は高く、「全私学新聞」にも取り上げられた。

(5) 卒業時の顕彰

上野奨学基金賞 3名 赤羽商学基金賞 1名

(6) 就職内定率 (21年3月31日)

短期大学部 92.5%

(7) 施設充実

- ・テニスコートの全面改修（人工芝対応）
- ・2号館外壁塗り替え
- ・1号館～3号館のトイレの全面改修
- ・1号館廊下の照明改修
- ・232教室の全机天板改修

(8) 財務関係

依然学生数の確保が順調に進み、収入の安定をもたらしている。20年度はテニスコー

トの全面改修や2号館校舎の外壁塗り替え、1号館～3号館のトイレの全面改修など施設への投資が大きかったが、単年度収支で収入超過となり繰り越しの収入超強も加算された。

■ 包括的な点検・評価と今後の課題

[目標・計画と成果]

短期大学部としての今期の重要課題は、代行職になっている短期大学部・学長を正式に選出すること、第三者評価を受審し適格の認証を受けること、GPに応募して少なくとも一つは採択されることが挙げられた。これらは全てクリアできており、その点から言えば今年度の点検・評価結果は十分に合格点が付けられる。加えて、学生募集も順調で現在のカリキュラム・システムが、最近の学生の感覚にフィットしており心をつかんでいると思われる。

[今後の課題]

今後の課題であるが、全国的に入学者数が定員を割り込んでいる短大（特に地方短大）が多い中で、本学は”奇跡的”に十分に定員を充足する状況が続けている。この中でもこれからは、経済的不況の進行による学費の支払いの困難さや就職難の問題が浮かび上がって来るであろう。学費に対する緊急支援策については、短大部だけではなく理事会とも連携して迅速な対応が求められると認識している。短期大学部としては募集状況を見れば四大や専門学校などとの競合にも関わらず集まってきているのであるから、「これ以外にはいないであろう短大生としてのペストをあずかっている」という認識から、就職の課題への取組も始めるべきであろう。「初年次教育、基礎学力を付ける、社会人としての力を付ける、キャリア教育を徹底する」など学生を成長させるためにやるべき事は数多くある。もう一方で、新しい企業を開拓するとともに、これまでお世話になっていた企業にも引き続き依頼するなど、企業と学生の間に立った積極的活動も、現在強く求められている。

入り口は、カリキュラム構成が現代の学生の感覚にフィットしていることで募集活動は順調に展開できている。中身の課題としては、学内での学生生活への支援体制がGPにも採択されていることで分かるようにしっかりしており、オーダーメイドの対応が出来ている。最後の出口が、どのような経済状況になっても学生に評価されるようなシステム（これまでではそうであった）になっていれば盤石である。本学はこの最後の点で、入学生の層の問題や経済状況の悪化などにより、教員間で動揺が見られる場合があるので、その克服が課題らしい課題と言える。